

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201348		
法人名	有限会社グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームかいぜ	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市皆瀬町 270-12		
自己評価作成日	平成28年12月28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年2月23日	評価確定日	平成29年3月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の皆さまは地域行事への参加やボランティアの方や保育園の園児さんたちと定期的に交流を持ち毎日楽しく穏やかに過ごされています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>昭和30年代から地域住民の診療を担ってこられた神谷医院の一部を改装し、15年前に“グループホームかいぜ”が開設された。日々誠心誠意のケアが続けられ、ホームで生活してこられた方々の看取りケアも行われている。28年度は新しい方々が入居され、入居者個々のアセスメントを続けてこられた。思いや意向の把握も継続し、「本が読みたい」と希望される方には地域の公民館の図書室を利用し、ご本人も喜んで下さった。地域の一員として夏祭り等に参加されたり、公民館祭り等に作品を出展している。家族と一緒に過ごす機会も大切にされており、クリスマス会や忘年会等は手作りのオードブルを囲んで楽しいひと時を過ごされた。これからも楽しみを増やしていくと共に、自立支援の視点で「できそうなこと」を増やしていく予定である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員それぞれが理念を念頭において毎日のケアをおこなっている。	理念にある「笑顔で明るく自分らしい生活を送る為」、全員での外出や少人数での外出の機会を増やし、季節の変化を感じて頂いている。「一人ひとりの人格、個性を尊重し支援致します」という理念も実践されており、入居者個々の役割(洗濯物たみ等)や楽しみ(編み物等)を増やしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には必ず参加し、日常的に交流出来る様に努力している	「つんの一で歩行リ-」に入居者が参加し、豚汁等も楽しまれ、夏祭りでは夜の花火を楽しまれた。保育園児と一緒に住職によるパネルシアターの上映会(なむなむ会)を見られたり、七夕飾りを一緒に楽しまれた。中学生の職場体験も続けられ、公民館祭りでは桜の貼り絵等の作品を出展した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方々が訪問された時や行事などの時、日常的な会話の中で行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの状況を報告し意見を頂きサービスの向上に活かせるよう努力している	会議の時に外出支援等のアイデアを頂いたり、地域にあつたら良いもの(まめバス)等の情報交換をしている。災害対策の検討も行われ、「災害に関する意識」へのアドバイスを頂いている。外部評価結果も報告し、「これからも頑張ってください」と言うお言葉を頂いた。	地域住民の方々の交流が多い地域でもあるが、高齢化は進んでいる。今後も引き続き、「地域の未来」や「この地域に必要なもの」等を含めて運営推進会議の議題を検討し、「今後の地域を考える」機会にしていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の担当者と推進会議以外でも連絡を取り合い協力関係を築くようにしている	認定の更新時は職員が支所に行かされている。顔馴染みの方が多く、書類の書き方等の説明をして頂いている。地域包括の方もホームの取り組みを理解して下さり、入居者の紹介等をして下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が外部や内部研修等で正しく理解し職員全員が拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束は全く行っていない。主治医や専門医との連携も行い、帰宅願望が見られる時は散歩に出かけたり、家族も面会に来て下さり、解決策の検討が行われている。1人暮らしをされていた方もおられ、入居者は「ここは楽しか〜」と笑顔で過ごされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会には積極的に参加し入居者の方の人格を尊重し虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の中の安心センターを利用している方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居当日には詳しく説明している。又、来訪された時には再度話し、理解・納得して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を置いている。ご家族が来られた時は意見・要望等をいつでも話しやすいように声掛けをしている。	入居者とゆっくり会話し、気持ちに寄り添うようにしている。面会時や家族会(年1回)で、施設長や管理者、職員から声かけし、「ここに入居できてよかった」等の思いと共に、「シャンプーはこれを」「トイレのズボンの上げ下げをお願いします」等の要望を伺い、日々の生活に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や通常の勤務等で時間・機会をみつけ全体・個別に意見を聞き反映させるようにしている。	施設長のお人柄もあり、管理者や職員は意見を伝えやすい環境が作られている。職員が自主的にアイデアを出して下さり、施設長や管理者も嬉しく思っている。職員の日帰り旅行も継続し、リフレッシュできる機会になっている。管理者も職員の勤務希望を把握し、シフト組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員と接する時間を作り、それぞれの良い所を伸ばし、希望を持って働ける職場作りに努めている。年に一度日帰りの旅行へ行ったり、親睦を兼ねて食事会を開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に応じて研修会への参加、資格取得の声掛けをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームに声掛けをして交流出来る様に努力している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い話を聞いて本人の状況、様子を把握する。不安、要望を受け止め安心してもらえる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせ、見学の段階から家族ともゆっくり向き合い不安、要望をしっかりと受け止め安心してもらえるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって、今何が必要なのかを状況や話の中で捉えホーム内にとどまらず、活用できる他のサービスも含め適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いだけでなく、昔からの行事などの話を聞いたり、昔の歌を習ったりして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	初期の段階より、家族とは話し合いをして、本人が安心して生活出来る様協力体制を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、ホームの協力でお墓参りやお買い物に出掛け、今までの関係が途切れない様に努めている。又ホームにご家族が来られた時には楽しく過ごして頂ける様にしています。	家族と一緒に馴染みの美容室に行き、食事をして来られる方や、家族とお墓参りに行かれる方もおられる。遠方の家族に電話をかけたり、年賀状も届いており、信仰の関係者も来て下さり、居室で団欒されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員は、一人ひとりの性格、他の利用者の方々との関係をしっかりと見極め、全員が協力し助け合って楽しく生活出来る様に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむおえない事情によりサービスが終了した場合も、出来る限り相談にのり、不安、心配が少なくなるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の話し合い、また入居後は一人ひとりとゆっくり向き合い、いつもの会話や生活状況の中で思い、意向を把握するようにしている。又、困難な場合には表情や動作から推し図れる情報を全職員で話し合い検討している。	日々の会話や活動を通して、思いの把握に努めている。以前のお仕事や昔好きだった事、思い等を伺っている。「元気で暮らしたい」「カラオケが得意」「お地蔵さんの帽子を編みたい」「お墓参りに行きたい」等の真の思いを知り、日々の生活の中で実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や今までしてきたことを把握し話などをし、意欲を持ってもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常の状況、心身状態、得意なこと苦手なこと等は、些細なことでもしっかりと記録したり、申し送り等で全員理解している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は日常生活の中で家族には面会時に意見や気持ちをお尋ねしケアプラン会議で、意向を重視し、反映したプランを話し合っている。	リハビリの視点も強化し、廊下を歩く事や体操等と共に、洗濯物たたみやテーブル拭き、「娘さんと一緒に外出」等も盛り込まれている。信仰されている宗教の集会への準備支援や「小説が読みたい」と言う事で地域の図書室にお連れしている。今後もセンター方式の一部を活用していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌に、ケアプランの結果・気づきはチェック表に記入し全職員がいつでも見ることが出来、情報を共有し、実践、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズ、状況に応じて本人にとって最も必要で安心を得られることを最優先し、柔軟に対応している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館祭りの作品出展、夏祭り、ウォークラリー、町内清掃等に参加をし、地域の一員として出来る事を協力し、助けを借りながら豊かな気持ちで生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医に受診されている。診察の時には状況を説明し、主治医より指導を受けたり、不安、気掛かりなことは相談している。又結果は家族に報告している。透析の方は主治医との連絡ノートを活用している。	神谷医院がかかりつけ医の方が多く、毎週の往診も受けている。25年9月から神谷医院が外来専門になっているが、夜間の体調変化時はホームの看護師や院長に連絡が取れる。家族が他科に受診介助する時は、お手紙を持参して頂き、受診結果の共有もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気付き、状況は看護師に伝え不安なこと、心配なことはいつでも相談をしている。必要時には看護師からも主治医に連絡をし適切な診療、治療が受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院先の関係者と密に連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族にアンケートを行っている。又状態に応じてその都度主治医を含めて話し合いを行いチームで支援に取り組んでいる。	全員の方がホームでの看取りを希望されている。24時間体制で医療連携でき、医師の指示で点滴や酸素吸入等も行われている。ご本人と家族の不安を和らげ、安心した気持ちで最期まで過ごせるように支援している。状態が少しでも変化した時は家族に連絡し、家族も一緒に終末期ケアをして下さった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により内部研修を行い、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、火災訓練を行っている。近所にも協力をお願いし、全員で取り組んでいる。防災グッズも備えている。	神谷内科と合同で訓練を行い、夜間想定のみ単独で行っている。28年6月は消防署も一緒に訓練が行われた。地域の連絡網に入れて頂き、自動通報に消防団のOBも入れさせて頂いている。災害に備えて非常食用のご飯や缶詰類、水、ヘッドライト、ヘルメット等を準備しており、今後も増やしていく予定である。29年度は地域合同で災害時の訓練を行う予定であり、地域の方の避難の受け入れ等の検討も行う予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者お一人おひとりを敬う事を忘れず、「してやる」という気持ちをもつことなく、プライドを傷つけないような声掛けを行っている。又、孤立させない様な対応も行っている。	「やさしいことばで～。同じ目線で～。静かに語りかけましょう～」と言う標語を事務所に貼り、職員は日々確認している。優しい職員ばかりで、言葉遣いも大切にされており、入居者との会話を楽しんでいる。今後も、ご本人の心身状況を理解し、日々のケアに活かしていく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や表情・家族の話などから入居者の思いや希望を受け止め、それぞれの気持ちを自然に表せるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入居者のペースを守り、一人ひとりの生活を大切に、毎日したいことが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに合った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きをスタッフと一緒にします。おやつ作りの他に時々昼食作りをして楽しむ様支援します。	朝はホームで、昼夜は下の厨房で作り、季節の料理(おでんや冷麦、クリスマスランチなど)や、入居者の好物の炊き込みご飯等も作られている。ホットプレートで“お好み焼き”や“もやしステーキ”等も一緒に作られており、テーブル拭きや食べた後の食器重ねをして下さっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量を記録している。透析の方には特に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前・食後の口腔ケア(イソジンでうがい)、食後出来る方は歯磨きをしてもらい、出来ない方に対して介助(一部介助)の対応を行っています。夕食後は義歯を一晩消毒しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人は動きなどの状況で判断し時間を見て声掛け誘導します。出来る事は自分で行ってもらい、出来ないことを支援します。	排泄が自立している方もおられ、布の下着の方もおられる。ご本人だけに聞こえるように耳元で声かけし、トイレ誘導している。意思疎通が困難な方は時間誘導すると共に、表情や仕草などで誘導を行い、失禁が減った方もおられる。	今後も排泄に関するアセスメント(有する能力、できそうな能力)を強化し、事前誘導等をさりげなく行い、少しでも自立支援に繋がる取り組みを行う予定である。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分補給や、食事に気をつけている。介護食で予防になるようなおかずを少しずつ取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいるが、希望や状況に合わせてシャワー浴もいつでも出来る様になっている。	会話をしながら自然に浴室に誘導するようにしている。週2回の入浴になっているが、希望があればシャワー等をしている。菖蒲湯や柚子湯と共に、お茶の葉のパックを湯船に入れて香りを楽しんで頂いている。自分でできる所は洗って頂き、ご本人のペースで入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、本人の意思を尊重し、自室で過ごされる時間を大切に安心されるように支援します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理票を作成し、常に確認できるようにしている。薬については、資料を見たり、看護師に聞いたりして、理解するようにしている。変化があった時にはすぐに、主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	信仰されている宗教の集会への出席の支援。本人から頼まれて、自販機のおしるこを買いに行ったり手作りした。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に添えるように、一人ひとりの希望を引き出す努力をしている。家族にも伝え希望にそえるよう支援している。	ホーム周辺の散歩を行っている。近くの公園のベンチに座り、ゆっくりと過ごす時もある。28年6月に車椅子対応の車を購入し、季節の花見やドライブを楽しまれたり、森きらら(動物園)や海きらら(水族館)にお連れしている。吉井の五臓の里でユニークな案山子を見学されたり、大野モールで買物し、食事を楽しまれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望されたので毎月1万円程度所持されている。知人と買い物に行かれた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯を持たれている方がおられたので、必要な時はかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動きやすいようにテーブル・ソファの配置換えを度々している。	12月はリビングから教会のイルミネーションを眺める事ができる。地域の方からプロジェクター等を寄与して頂き、「世界の車窓」や昔の歌等のDVDを楽しまれている。リビングで過ごされる方が増え、歩行器の置き場所等も工夫し、安全な移動への配慮を続けている。今後も座位時間を把握し、筋力の維持向上に努めると共に、臭気対策も検討予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の小さなぶつかり合いなどの時も気にならないように、配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前・本人・ご家族と相談して馴染みのタンスや品物を使用してもらい、以前の環境に近くなるようにし、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	ご本人の移動に応じて、ベッドの向きや家具の配置を工夫し、ホータブルの前にはカーテンスタンドが置かれている。仏壇を置かれている方には、拝む事を忘れないよう職員が声かけし、お経を唱えている方もおられる。居室でラジオを聞かれたり、編み物をされている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口には名前を書きわかるようにしている。よく使うトイレはわかりやすいように「便所」と書いたり、矢印で表示したりしている。		